

# 研究レポート No.719 岩手県農業研究センター

## だいこんキスジノミハムシ多発時での防除体系 ～ 防除開始時期と防除間隔を守るのが大切です ～

### 【1 成果概要】

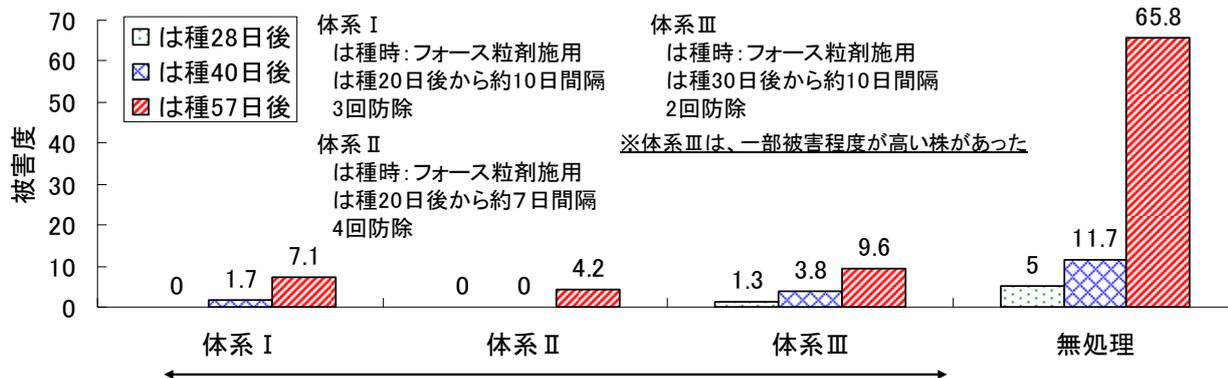
- (1) だいこんにおいてキスジノミハムシによる被害が多発するほ場では、は種時にフォース粒剤を施用し、は種20日後から7～10日間隔で茎葉散布による防除を行うことで、キスジノミハムシによる被害の発生を大きく抑制することができます(図3)。
- (2) 県防除指針に採用されている農薬の中で、だいこんキスジノミハムシに適用がある農薬の効果はほぼ同等で、特に優れているものはありません。



図1 キスジノミハムシ幼虫による根部被害



図2 キスジノミハムシ成虫(葉を加害)



は種時にフォース粒剤(播溝土壌混和 4kg/10a)施用  
図3 キスジノミハムシ防除体系別の被害程度 (H25 北上市農研Cほ場)

図3 散布薬剤: 体系 I ハチハチ乳剤→モスビ<sup>®</sup>ラン水溶剤→サイアノックス乳剤  
体系 II ハチハチ乳剤→モスビ<sup>®</sup>ラン水溶剤→サイアノックス乳剤→アケセルフロアブル  
体系 III ハチハチ乳剤→モスビ<sup>®</sup>ラン水溶剤

### 【2 留意事項】

- (1) 図3で示した体系は薬剤の使用例ですので、実際の防除においては県防除指針等を参考にアオムシやコナガ等の害虫の発生状況も考慮して薬剤を選定してください。